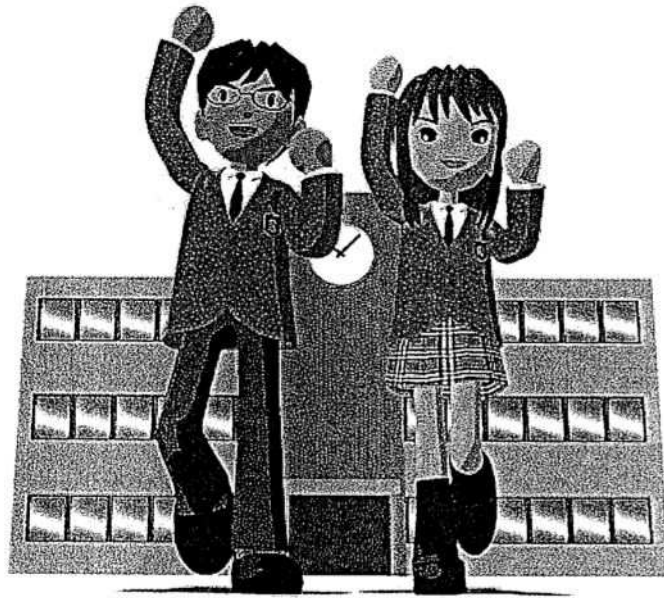


令和8年度

シラバス



福山高校 普通科2年

国語	2
地理歴史	10
公民	14
数学	16
理科	20
保健体育	26
外国語(英語)	30
家庭	36
理数	38

入 学 年 度			令 和 7 年 度				備 考	
学 年			1	2	3	計		
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	
		言語文化	◎2	2			2	
		論理国語	4		2	2	4	
		文学国語	4		2	2	4	
		国語表現	4		★2	★2	★4	国語表現、古典探 究履修者は、2,3年 次継続履修
		古典探究	4		★2	★2	★4	
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2	地理探究、日本史 探究履修者は、2,3 年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3	■5	
		歴史総合	◎2	2			2	
		日本史探究	3		■2	■3	■5	
	公 民	公共	◎2		2		2	
		政治・経済	2			2	2	
	数 学	数学Ⅰ	◎3	5			5	
		数学Ⅱ	4		2	2	4	
		数学A	2		2		2	
		数学B	2			2	2	
		数学C	2			★2	★2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2	3年次の生物は、2年 次に生物基礎を履修 したものが履修
		物理基礎	○2		▲2		▲2	
		化学基礎	○2		2		2	
		化学	4			△4	△4	
		生物基礎	○2		▲2		▲2	
		生物	4			△4	△4	
	保健体育	体育	◎7~8	3	2	3	8	
		保健	◎2	1	1		2	
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2	
		美術Ⅰ	○2	□2			□2	
		書道Ⅰ	○2	□2			□2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	5			5	
		英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4	
論理・表現Ⅰ		2		3		3		
論理・表現Ⅱ		2			3	3		
エッセイライティングⅠ		2~8		★2	★2	★4	エッセイライティングⅠ履 修者は、2,3年次継 続履修	
家 庭	家庭総合	◎4		2	2	4		
情 報	情報Ⅰ	◎2	2			2		
理 数	理数探究基礎	1		★2		★2	3年次の理数探究は、2年次 に理数探究基礎を履修した ものが選択履修	
	理数探究	2~5			★2	★2		
科目単位数計			28	28	29	85		
総探	福山みらい創業塾	◎3~6	2	2		4		
	キャリアプラン				1	1		
合 計			30	30	30	90		
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3		
週当たり総時数			31	31	31	93		

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科	教科 科目名	国 語		履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		「論理国語」					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を工場させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。</p>							
教 材		<p>使用教科書 東京書籍 新編論理国語</p> <p>副 教 材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア</p>							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	広がる風景	・筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考えるとともに、論理的に考えることの意義を知る。	単元テスト・1学期期末	○	○	○	
		5月							
		6月	考える手がかり	・本文を論理的に読み取り、述べられていることに思いを巡らすとともに、考えを深める。		○	○	○	
		7月							
	2 学 期	9月	人間と知性	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。	単元テスト・2学期期末	○	○	○	
		10月	現実の中で	・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、ものごとの本質について考える。		○	○	○	
		11月							
		12月	ものの見方	・文章に示された考え方を手がかりに、ものごとの捉え方について理解を深める。		○	○	○	
	3 学 期	1月	働くよるこび	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	学年末	○	○	○	
		2月							
		3月							
	学習の方法 予習・復習 ノート等		<p>(1)しっかりと活動に参加することが大切です。</p> <p>(2)漢字の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めるように努めましょう。</p> <p>(3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。</p> <p>(4)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。</p>						
評 価 方 法		<p>(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート)</p> <p>(2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。</p> <p>A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>							
備 考 欄		<p>国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。</p> <p>週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。</p>							

教 科	国語	科 目 名	論理国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	問いに対する答えを的確に記せている。	問いに対する答えを記せている。	問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ノート	自分の考えや、問いに対する答えを的確に記せている。	自分の考えや、問いに対する答えを記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ワークシート	自分の考えや、問いに対する答えを的確に記せている。	自分の考えや、問いに対する答えを記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
	授業	作文レポート	論理的に考え、自分の主張を明確に伝えている。	論理的に考え、自分の主張を他者に伝えようとしている。	自分の考えを論理的にまとめることができていない。
	授業	発表	論理的に考え、自分の考えを表現豊かに発表している。	自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を工場させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	国 語 「文学国語」		履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		大修館書店 新編文学国語 副 教 材 尚文出版 ライトパーフェクト演習								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	明日をひらく	・筆者が大切だと考えていることをし、その考えと比較しながら自分の生き方について考えを深める。	単元テスト・1学期期末	○	○	○		
		5月	小説を楽しむ	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。		○	○	○		
		6月	古典の世界	・話のおもしろさと教訓をとらえる。		○	○	○		
		7月	詩を味わう	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。		○	○	○		
	2 学 期	9月	名作を読む	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	単元テスト・2学期期末	○	○	○		
		10月	古典の世界2	・主人公の心情やその変化を読み取る。		○	○	○		
		11月	社会に生きる	・小説を読む楽しさを味わう。 ・話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。		○	○	○		
		12月	表現を味わう	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。		○	○	○		
	3 学 期	1月	古典の世界3	・作品に表れている作者の感性をとらえる。	学年末	○	○	○		
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (3)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度 (授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	文学国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	問いに対する答えを的確に記せている。	問いに対する答えを記せている。	問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ノート	板書事項を正確に記した上で、その他の重要事項も書き込み、分かりやすくまとめている。	板書事項を正確に記している。	板書事項を正確に記すことができていない。
	授業	ワークシート	自分の考えや問いに対する答えを的確に記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	国 語 「国語表現」		履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲 能	評価の観点			
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。				知 識		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度		
教 材		使用教科書 大修館書店 国語表現 副 教 材									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	言葉と出会う	・言葉というものを多角的に捉えることによって、言葉の持っている素晴らしさを改めて認識する。		パ フ ォ ー マ ン ス 課 題 ・ 1 学 期 期 末 パ フ ォ ー マ ン ス 課 題 ・ 2 学 期 期 末 学 年 末	○	○	○		
		5月	伝える、伝え合う	・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。			○	○	○		
		6月					○	○	○		
		7月	小論文・レポート入門	・レポートの基本的な書き方を理解する。 ・客観的な根拠を集めて、説得力のあるレポートをまとめる。 ・さまざまな種類のグラフの特徴を知り、その読み取り方を理解する。 ・資料から読み取ったことをふまえて、自分の意見を明確にして小論文を書く。			○	○	○		
	2 学 期	9月	自己PRと面接	・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。			○	○	○		
		10月	メディアを駆使する	・さまざまなメディアの特徴を知り、目的や意図に応じて適切な情報を収集・整理し、効果的に伝え合う。			○	○	○		
		11月					○	○	○		
		12月	読書の広場	・本の紹介やビブリオバトルを通して、改めて本の魅力を知って、主体的に読書活動になる。			○	○	○		
	3 学 期	1月	会話・議論・発表	・司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 ・視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテーションをする。			○	○	○		
		2月					○	○	○		
		3月					○	○	○		
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)積極的に活動に参加することが大事です。 (2)ワークシートにしっかりと取りくみましょう。 (3)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度 (授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。									

教 科	国 語	科 目 名	国語表現
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを明確にして、構成や展開などを効果的に工夫して書いている。	自分の考えを明確にし、読み手に伝えようと工夫している。	自分の考えを表現できていない。著しく短い文章を書いている。
	授業	ワークシート	自分の考えを明確にして、構成や展開などを効果的に工夫して書いている。	自分の考えを明確にし、読み手に伝えようと工夫している。	自分の考えを表現できていない。著しく短い文章を書いている。
	授業	作文 レポート	自分の考えを明確にして、構成や展開などを効果的に工夫して書いている。	自分の考えを明確にし、読み手に伝えようと工夫している。	自分の考えを表現できていない。著しく短い文章を書いている。
	授業	発表	自分の考えが伝わるように、適切な根拠を用いて工夫して表現している。	自分の考えが伝わるように、工夫して表現している。	自分の考えを伝えられていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返ることができる。	単元の学習内容を振り返ることができていない。
	提出物	課題 提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国 語		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「古典探究」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		意義による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の間わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教材		使用教科書 第一学習社 標準古典探究 副 教 材								
学習の内容	1 学 期	4月	古今著聞集	<ul style="list-style-type: none"> 平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、平中の色好みに端を発する滑稽話のおもしろさを味わう。 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 		単元テスト・1学期期末	○	○	○	
		5月	故事・寓話	<ul style="list-style-type: none"> 現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 			○	○	○	
		6月	方丈記	<ul style="list-style-type: none"> 和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 			○	○	○	
		7月	三国志の世界	<ul style="list-style-type: none"> 史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 			○	○	○	
	2 学 期	9月	伊勢物語	<ul style="list-style-type: none"> 歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 文語のきまりについて理解を深める。 		単元テスト・2学期期末	○	○	○	
		10月	漢詩の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。 漢詩を鑑賞して、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 			○	○	○	
		11月	日本の詩 沙石集	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の特徴について理解を深める。 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 			○	○	○	
		12月	不思議な世界	<ul style="list-style-type: none"> 小説という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 			○	○	○	
	3 学 期	1月	和歌	<ul style="list-style-type: none"> わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の特色を理解し、黎明期の和歌を鑑賞する。 和歌という文章の種類や古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える。 		学年末	○	○	○	
		2月								
		3月								
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (4)わからない単語は、自分でしっかりと調べましょう。							
評価方法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	国 語	科 目 名	古典探究
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	問いに対する答えを的確に記せている。	問いに対する答えを記せている。	問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ノート	板書事項を正確に記した上で、その他の重要事項も書き込み、分かりやすくまとめている。	板書事項を正確に記している。	板書事項を正確に記すことができていない。
	授業	ワークシート	自分の考えや問いに対する答えを的確に記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	地理歴史		履修学年	2学年 2単位		評価の観点			
		科目名	地理探究		単位数			考 査 範 囲	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うことを目指す。									
教 材		使用教科書： 二宮書店 地理探究 帝国書院 標準高等地図		補助教材： 二宮書店 地理探究ワークブック							
学習の内容	1 学 期	4月	イントロダクション	オリエンテーション		1 学 期 期 末	○	○	○		
		5月	第1編 第1章 自然環境	①地形を理解する。							
		6月		②気候と生態系を理解する。 ③世界各地の自然と生活を理解する。							
		7月		④日本の自然環境と防災を理解する。							
	2 学 期	9月			⑤地球環境問題を理解する。		2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	第1編 第2章 資源と産業	①農林水産業を理解する。							
		11月		②資源・エネルギーを理解する。 ③工業を理解する。		2 学 期 期 末	○	○	○		
		12月		④第3次産業を理解する。							
	3 学 期	1月	第1編 第3章 人・モノ・金のつながり	①交通・通信を理解する。		学 年 末	○	○	○		
		2月		②貿易・観光を理解する。							
		3月									
	学習の方法 予習・復習 ノート等		<ul style="list-style-type: none"> 教科書、地図帳、地理探究ワークブックは必ず持参すること。は自宅学習用です。 授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 地理探究ワークブックを使って授業を行います。 地理探究ワークブックは学期末に回収、点検します。チェックポイントは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。 								
評 価 方 法		(1) 知識・技能…地理探究ワークブック、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題 (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		定期考査と別に、授業内で単元ごとの小テストを行います。									

教 科	地理歴史	科 目 名	地理探究	
-----	------	-------	------	--

知識・技能	到達目標	<p>・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。</p> <p>・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査 小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	<p>・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として系統地理的、地誌的に考察、構想することができる。</p> <p>・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p>			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査 小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<p>・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようとすることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表 プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等も行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	地理歴史 日本史探究	履修学年 単位数	2 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点			
学習の目標		わが国の歴史の展開を、諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察理解し、歴史的思考力を同時に培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
教 材		使用教科書「日本史探究」東京書籍 補助教材「新日本史要点ノート(標準編)」「新日本史研究ノート(標準編)」啓隆社 「新詳日本史」浜島書店								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史時代の生活と文化 ・集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗の推移など社会の変化			1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	第2章 歴史資料と先史・古代の展望 ・集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、対外的な交など社会の変化を学ぶ。				○	○	○	
		6月	第3章 古代社会の形成と展開			1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月	・大和～白鳳時代の政治体制の変化と、人々の生活の変化について学ぶ。 ・奈良時代～平安時代にかけての、貴族と庶民の日常生活について学ぶ。 ・律令政治の再建、藤原氏による摂関政治が始まったことを学ぶ。 ・地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学ぶ。				○	○	○	
	2 学 期	9月	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 ・院政及び、武家政権としての平氏政権が成立したことを学ぶ。 ・地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学ぶ。			2 学 期 中 間	○	○	○	
			第2章 歴史資料と中世の展望 ・歴史資料から当時の社会、国際関係について展望する。				○	○	○	
		10月	第3章 中世社会の展開 ・鎌倉幕府の滅亡後、室町幕府が成立した過程について学ぶ。 ・鎌倉幕府の成立と、幕府を中心とした武家社会が成立した過程について学ぶ。 ・庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になったことを学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○	○	
			11月	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 ・大航海時代の中、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを学ぶ。 ・織田信長・豊臣秀吉による天下統一の過程を学ぶ。 ・世界の中で当時の日本がどのような位置づけであったかについて学ぶ。				○	○	○
	3 学 期	1月	第2章 歴史資料と近世の展望 ・江戸幕府の組織と大名統制など幕藩体制の特色について学ぶ。 ・鎖国政策による貿易統制と禁教のもとで交易が行われたことを学ぶ。 ・歴史資料から当時の社会、政治、文化について展望する。			学 年 末	○	○	○	
			2月	第3章 近世社会の展開 ・17世紀中頃から、武断政治から文治政治に転換したことを学ぶ。				○	○	○
			3月	・近世の身分と人々の暮らしについて学ぶ。				○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)平日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※考査前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。								

教 科	地理歴史	科 目 名	日本史探究	
-----	------	-------	-------	--

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった(欠席も含む)。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった(欠席も含む)。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。		
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度(定期考査)	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった(参加できなかった)。
	提出すべき課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取り組みに不足があり、期限に迫られて取り組んでいた。	全く取り組めていなかった。

教 科	公 民	科 目 名	公 共
-----	-----	-------	-----

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかつた(欠席も含む)。
説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分からなかった。	全く理解できなかつた(欠席も含む)。	
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかつた。
グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。		
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度(定期考査)	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかつた(参加できなかつた)。
提出すべき課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取り組みに不足があり、期限に迫られて取り組んでいた。	全く取り組めていなかつた。	

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学Ⅱ	履修学年 単位数	二学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
教 材		使 用 教 科 書 新数学Ⅱ(東京書籍)				困				
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	式の計算	・3次式の乗法公式と因数分解、二項定理、分数式の四則演算について学習する。		中 間 考 査	○		○	
		5月	2次方程式	・複素数、複素数の計算、2次方程式の解、解と係数の関係について学習する。			○	○	○	
		6月	高次方程式	・多項式のわり算、因数定理、高次方程式について学習する。		期 末 考 査	○	○	○	
		7月	式と証明	・等式の証明、不等式の証明について学習する。			○	○	○	
	2 学 期	9月	座標と直線の方程式	・直線上や平面上の点の座標、直線の方程式、2直線の関係について学習する。		中 間 考 査	○	○	○	
		10月								
		11月	円と方程式	・円の方程式や円と直線について学習する。		期 末 考 査	○		○	
		12月	軌跡と領域	・軌跡や不等式の表す領域について学習する。			○	○	○	
	3 学 期	1月	三角関数	・一般角、三角関数、加法定理、弧度法について学習する。		学 年 末 考 査	○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、積極的に取り組みましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
	評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
	備 考 欄									

教 科	数学	科 目 名	数学Ⅱ
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身につけている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	課題の取り組み	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、取り組むことができた。	課題に取り組めた。	課題に取り組むことができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	二 学 年 2 単 位	評価の観点			
		科目名	数学A		単 位 数		考 査 範 囲	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学 習 の 目 標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学A(東京書籍)								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	場合の数と確率	・部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合、集合の要素の個数について学習する。	中 間 考 査	○		○		
		5月		・個数の数え方、和の法則、積の法則について学習する。		○		○		
				・順列や順列を利用して総数を求める方法について学習する。		○	○	○		
				・組合せや組合せを利用して総数を求める方法について学習する。		○	○	○		
		6月	確率	・試行と事象、事象の確率について学び、基本的な確率を求める方法について学習する。	期 末 考 査	○	○	○		
		7月		・場合の数、排反事象、余事象の確率を求める方法について学習する。		○		○		
		2 学 期	9月		・独立な試行、反復試行の確率を求める方法について学習する。	中 間 考 査	○		○	
				・条件付き確率、期待値について学習する。	○		○	○		
			10月	平面図形の基礎	・直線と角、多角形の角について学習する。	期 末 考 査	○		○	
					・三角形の合同や相似、作図について学習する。		○	○	○	
			11月	三角形の性質	・三角形と比の性質や中点連結定理について学習する。	期 末 考 査	○	○	○	
					・三角形の重心、内心、外心について学習する。		○	○	○	
		12月	円の性質・空間図形	・円の接線、円周角の定理、円に内接する四角形の性質について学習する。	学 年 末 考 査	○		○		
	3 学 期	1月		・接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円の位置関係、空間図形について学習する。		○	○	○		
		2月	数学と人間関係	・数や位置を表し方や数のつくり方について学習する。	○	○	○			
		3月								
学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等	(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、積極的に取り組みましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。									
評 価 方 法	(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄										

教 科	数学	科 目 名	数学A
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身につけている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	課題の取り組み	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、取り組むことができた。	課題に取り組めた。	課題に取り組むことができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現している。	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	2 学 年	評価の観点			
		科目名	「物理基礎」		単 位 数	2 単 位	考 査 範 囲	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 								
教 材		使用教科書： 東京書籍 新編物理基礎 副 教 材： 浜島書店 新ゼミナール物理基礎								
学習の内容	1 学 期	4月	直線運動の世界	・直線的な運動について学習する。	1 学 期 期 末	○	○	○		
			等速直線運動	速さが一定の直線運動		○	○	○		
		5月	自由落下運動	地球の重力を受けた運動		○	○	○		
		6月	力と運動の法則	・力と物体の質量、速度の変化の関係 (実験 力と質量及び運動の変化の関係)		○	○	○		
		7月		・運動の三法則について学習する。	○	○	○			
				一学期のまとめ	○	○	○			
	2 学 期	9月	仕事とエネルギー	・仕事の意味と物体の持つエネルギーについて学習する。	2 学 期 中 間	○	○	○		
		10月	力学的エネルギーの保存	・力学的エネルギーは保存されることを学習する。 (実験 力学的エネルギーの保存)		○	○	○		
		11月	いろいろな運動でみる力学的エネルギー	・力学的エネルギーが保存されない場合について学習する。 (実験 摩擦のある面での運動)	2 学 期 末	○	○	○		
		12月	熱と物質、熱と仕事	・熱について学習する。 (実験 熱の移動)		○	○	○		
	3 学 期	1月	波動	・いろいろな波について学習する	学 年 末	○	○	○		
		2月	音波	・身近な音について学習する		○	○	○		
3月		弦や気柱の振動	・弦や気柱の振動と音について学習する	○		○	○			
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	数学	科 目 名	数学A
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身につけている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	課題の取り組み	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、取り組むことができた。	課題に取り組めた。	課題に取り組むことができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科	履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「物理基礎」	単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
教 材		使用教科書： 東京書籍 新編物理基礎 副 教 材： 浜島書店 新ゼミナール物理基礎							
学習の内容	1 学 期	4月	直線運動の世界	・直線的な運動について学習する。	1 学 期 期 末	○	○	○	
			等速直線運動	速さが一定の直線運動		○		○	
		5月	自由落下運動	地球の重力を受けた運動		○	○	○	
		6月	力と運動の法則	・力と物体の質量、速度の変化の関係 (実験 力と質量及び運動の変化の関係)		○	○	○	
		7月		・運動の三法則について学習する。 一学期のまとめ		○	○	○	
	2 学 期	9月	仕事とエネルギー	・仕事の意味と物体の持つエネルギーについて学習する。	2 学 期 中 間	○	○		
		10月	力学的エネルギーの保存	・力学的エネルギーは保存されることを学習する。 (実験 力学的エネルギーの保存)		○	○	○	
		11月	いろいろな運動でみる力学的エネルギー	・力学的エネルギーが保存されない場合について学習する。 (実験 摩擦のある面での運動)	2 学 期 末	○	○	○	
		12月	熱と物質、熱と仕事	・熱について学習する。 (実験 熱の移動)		○	○	○	
	3 学 期	1月	波動	・いろいろな波について学習する	学 年 末	○	○		
		2月	音波	・身近な音について学習する		○		○	
		3月	弦や気柱の振動	・弦や気柱の振動と音について学習する		○		○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	理 科	科 目 名	物理基礎	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・物理的な現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、物理的な現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できた。	実験結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・物理的な現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できた。	課題や仮説を設定できない。
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実験結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・物理的な現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科	教科 科目名	理科		履修学年 単 位 数	2 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		化学基礎					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とそその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。							
教 材		教科書 第一学習社 高等学校 新化学基礎 副教材 浜島書店 基本新ステップノート化学基礎							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	化学と人間生活・人間生活の中の化学について金属やプラスチックを例に学習する。			1 学 期 期 末	○	○	○
		5月	物質の分離・混合物から純物質を取り出す方法を学習する。 (実験 ろ過)				○	○	○
		6月	原子・物質を構成する粒子について学習する。 (実験 硫黄の同素体)				○	○	○
		7月	化学結合・イオン結合、共有結合、金属結合について学習する。 (実験 水溶液の電気伝導性)				○	○	○
	2 学 期	9月	結合のまとめ・イオン結晶、共有結合による結晶、金属結晶について学習する。			2 学 期 中 間	○	○	○
		物質量	・小さい粒子の質量の扱い方を学習する。 ・物質量と体積の関係について学習する。				○	○	○
		10月	化学反応式・化学反応の表し方や量的関係について学習する。 (実験 化学反応における量的関係)			2 学 期 期 末	○	○	○
		11月	酸と塩基・酸、塩基の性質について学習する。 ・pHについて学習する。				○	○	○
	3 学 期	12月	中和反応・酸と塩基を混ぜると、その性質が打ち消されることを学習する。 (実験 中和滴定)			3 学 期 学 年 末	○	○	○
		1月	酸化と還元・日常生活に利用されている酸化還元反応について学習する。				○	○	○
	2月	電池電気分解・酸化還元反応の身近な例について学習する。			○	○	○		
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	理 科	科 目 名	化学基礎	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できた。	実験結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できた。	課題や仮説を設定できない。
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実験結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科	教科 科目名	理科		履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		生物基礎					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。							
教 材		教科書：東京書籍 新編生物基礎 副教材：東京書籍 ニューサポート 新編 生物基礎							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	多様性と共通性	・進化の面から、生物の多様性と共通性について学ぶ。 (実験 植物細胞の観察)		○	○	○	
		5月	エネルギー	・細胞とエネルギー、遺伝物質としてのDNAについて理解する。(実験 光合成色素の分離、酵素の働き)		○	○	○	
		6月	遺伝子	・遺伝情報のメカニズムを知る。(実験 DNAの抽出) ・DNAの複製と分配について学ぶ。		○	○	○	
		7月	タンパク質	・タンパク質の構造について学ぶ。 ・タンパク質と遺伝情報について学ぶ。		○	○	○	
	2 学 期	9月	体内環境	・体内の恒常性を維持するタンパク質からなる酵素やホルモンの種類をその性質とともに学ぶ。		○	○	○	
		10月	神経	・神経システムとその機構について学ぶ。 ・ホルモンのはたらきについて学ぶ。(実験 イリコの解剖)		○	○	○	
		11月	免疫	・免疫システムとその機構について学ぶ。 ・ヒトの免疫について学ぶ。 ・免疫と疾患について学ぶ。		○	○	○	
		12月	植生	・植物の植生とその構造について学ぶ。 ・植物の極相について学ぶ。		○	○	○	
	3 学 期	1月	気候	・バイオームの分布について学ぶ。		○	○	○	
		2月	生態系	・地球環境の保全について、生物学的な立場から学ぶ。 (実験 水生生物による河川の水質調査)		○	○	○	
		3月				○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	理 科	科 目 名	生物基礎	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できた。	実験結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できた。	課題や仮説を設定できない。
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実験結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション・授業の心得、体育館施設利用の説明 集団行動 ・集団行動の基本的動作確認							
		5月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習					○	○	○
		6月	球技Ⅰ・武道 選択 ・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習					○	○	○
		7月	体育理論 ・運動・スポーツの学び方(①～②)					○	○	○
	2 学 期	9月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習							
		10月	球技Ⅱ・武道 選択 ・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習					○	○	○
		11月	陸上競技 ・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける。					○	○	○
		12月	体育理論 ・運動・スポーツの学び方(③～④)					○	○	○
	3 学 期	1月	球技Ⅲ ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習					○	○	○
		2月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習							
		3月	体育理論 ・運動・スポーツの学び方(⑤～⑥)					○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題への取り組み、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体育
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する。	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける。	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考する。	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。	観察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	観察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	保健体育 保健	履修学年 単 位 数	2学年 1単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		学習の目標					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。							
教 材		使用教科書 (大修館書店)現代高等保健体育 副 教 材 (大修館書店)現代高等保健体育ノート							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション 生涯の各段階における健康	・各ライフステージにおける健康課題についての学習	一 学 期 期 末	○	○	○	
		5月		・思春期や性に関する健康課題についての学習		○	○	○	
		6月		・結婚生活における健康課題についての学習		○	○	○	
		7月	労働と健康	・加齢における健康課題についての学習 ・働くことと労働災害についての学習 ・職業生活における健康課題についての学習		○	○	○	
	2 学 期	9月	環境と健康	・環境汚染における健康課題①についての学習	二 学 期 期 末	○	○	○	
		10月		・環境汚染における健康課題②についての学習		○	○	○	
		11月		・環境の対策、産業廃棄物における健康課題についての学習		○	○	○	
		12月	食品と健康	・ごみ処理や上下水道における健康課題についての学習 ・食品の安全性についての学習 ・食品衛生にかかわる活動についての学習		○	○	○	
	3 学 期	1月	保健・医療制度及び地域の保健・医療健康	・保健サービス・医療サービスとその活用についての学習 ・医薬品の制度とその活用についての学習	三 学 期 期 末	○	○	○	
		2月	さまざまな保健活動や社会的対策	・国内外の保健活動や社会的対策についての学習		○	○	○	
		3月	健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進の環境づくりについての学習		○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。 ・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、考査、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、考査、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題への取り組み、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をしてもらい、取組状況を確認します。							

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查レポート	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解している。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
	安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查レポート	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解している。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題発見、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する。	考查レポート	事象や情報から課題を発見し、危険予測・危険回避したり、傷害の悪化を防止したり、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す。	ノート授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科	教科 科目名	外国語(英語)		履修学年 単位数	2学年 2単位	評価の観点			
		英語コミュニケーションⅡ				考 査 範 囲 技 能	知 識	思 考 判 断 力	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 <ol style="list-style-type: none"> 3. 必要な情報を読み取り、聞き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 <ol style="list-style-type: none"> 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 <ol style="list-style-type: none"> 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 							
教材		使用教科書<開隆堂>Amity English Communication Ⅱ 副教材<開隆堂> Amity English Communication Ⅱ ワークブック 副教材<旺文社> 英単語ターゲット1200【改訂版】							
学習の内容	1学期	4月～5月	Lesson 1 Okinawa 【沖縄の魅力】	・be動詞、一般動詞、助動詞について学習する。・訪れたい場所について紹介する。 ・沖縄の魅力について話し合う。	1学期中間考査	○	○	○	
		5月～6月	Lesson 2 The History of Japanese Food 【日本食の歴史】	・be動詞、一般動詞、動名詞について学習する。・好きな食べ物について紹介する。 ・日本食の歴史と発展について話し合う。	1学期期末考査	○	○	○	
		6月～7月	Lesson 3 Volunteer Work 【高校生のボランティア活動】	・不定詞、受動態について学習する。 ・参加してみたいボランティア活動について紹介する。 ・ボランティア活動について話し合う。	2学期中間考査	○	○	○	
	2学期	9月～10月	Lesson 4 Gacha-gacha 【ガチャガチャ】	・SVOCについて学習する。・ガチャガチャの中にあつたら嬉しいと思うものについて説明する。・外国人に人気のある日本文化について話し合う。	2学期中間考査	○	○	○	
		10月～11月	Lesson 5 Interesting Aquariums 【おもしろ水族館】	・形式主語、形式目的語について学習する。・水族館と動物園とでは、どちらが好きかについて説明する。 ・ユニークな水族館について話し合う。	2学期期末考査	○	○	○	
		12月	Lesson 6 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】	・接続詞、前置詞について学習する。・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。 ・AIロボットと人間の関係について話し合う。	学年末考査	○	○	○	
	3学期	1月	Lesson 6 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】	・接続詞、前置詞について学習する。・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。 ・AIロボットと人間の関係について話し合う。		○	○	○	
		2月	COMMUNICATE +① 買い物に誘うとき(対話)	・電話での会話をもとにしたメールの書き方について学習する。		○	○	○	
	3月	Lesson 1～Lesson 6 まとめ・復習				○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。							
評価方法		(1) 知識・技能(授業:小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業:ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業:ノート・ワークブック・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄									

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ
-----	---------	-------	--------------

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できている。間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄である。
授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。	
思考・判断・表現	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを書き、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを書き、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを書き、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を書き、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を書いている。	空欄が多く、授業内容を書いていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く書き、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書き、表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く書き、表現豊かに記している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書き、表現ができていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた積極的な姿勢で取り組もうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート・ワークブック	板書事項をきちんと書き、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を書いている。	板書事項を書いていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	課題	課題	すべての課題に関して、内容をきちんと書いている。	内容を概ね書いている。	内容が書かれていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲を欠いている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科	教科		外国語(英語)	履修学年	2学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
	科目名		論理・表現 I	単 位 数			知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標	<p>・話すこと(やり取り)・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>・話すこと(発表)・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>・書くこと・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>								
教材	<p>使用教科書<開隆堂>Amity English Logic and Expression I</p> <p>副教材<開隆堂>Amity English Logic and Expression I ワークブック</p> <p>副教材<旺文社>英単語ターゲット1200【改訂版】</p>								
学習の内容	1 学 期	4月	Pre-Lesson 1-4	身の回りにあるものの英語、いろいろな品詞、文の種類等を確認する。	1 学 期 中 間 考 査	○	○	○	
			Lesson1	現在形の用法を学習し、自分や周りの人などを表現する。		○	○	○	
		5月	lesson2	過去形の用法を学習し、過去の事実や出来事について表現する。		1 学 期 期 末 考 査	○	○	○
			Action Part 1	友達の好きなものについて質問をしたり、発表したりする。			○	○	○
			Lesson3	現在進行形と過去進行形の用法を学習し、過去の事実や今していること、過去にしていたことについて表現する。		2 学 期 中 間 考 査	○	○	○
		6月	Lesson4	未来を表す表現(will, be going to)を学習し、自分のことやこれから起こることなどを表現する。			○	○	○
		Scene 1	ファーストフード店でのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
		Break Time 1	クロスワードパズルを用いて語彙を覚える。			○	○	○	
		7月	Lesson5	助動詞(can, may)の用法を学習し、自分ができることを表現したり、将来の自分に手紙を書く。		2 学 期 中 間 考 査	○	○	○
		Lesson6	助動詞(must, should)の用法を学習し、しなければならないこと、やらなければならないルールについて表現する。	○			○	○	
		9月	Action Part2	富士山の登山について、しなければならないこと、してはいけないことなどを発表する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		Lesson7	現在完了形(完了、結果、経験)の用法を学習し、身の回りで起こったことや自分の経験などを表現する。	○			○	○	
		10月	Step Up 1	Show & Tellやマインドマップを用いたプレゼンテーションの方法を学習する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		Lesson9	受動態の用法を学習し身の回りの物や好きな本や作品などについて表現する。	○			○	○	
			Lesson10	比較級と最上級の用法を学習し、身の回りのものや友達や家族について表現する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		Lesson11	同等比較と倍数比較の用法を学習し、身の回りのものや訪れたい国について表現する。	○			○	○	
		11月	Action 3	オリジナルのクイズを作成し、出題する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		Scene 2	道案内でのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。	○			○	○	
			Break Time2	Tongue Twistersを用いて英語らしい発音を身につける。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		Lesson12	動名詞の用法を学習し、自分や周りの人、好きなことについて表現する。	○			○	○	
		Lesson13	to不定詞の名詞的用法とit is～to・・・の用法を学習し、身の回りのものや感情などを表現する。	2 学 期 期 末 考 査	○	○	○		
	12月	Step Up 2	パラグラフライティング用いた文章の書き方を学習する。		○	○	○		
		Lesson14	to不定詞の副詞的用法と形容詞的用法を学習し、活動の目的や身の回りの物などを表現する。	2 学 期 期 末 考 査	○	○	○		
	1月	Lesson15	現在分詞と過去分詞の用法を学習し、人や身の回りのもの、友達や家族などについて表現する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		Scene 3	おみやげを買う場面でのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
		Break Time 3	英語でものを数える表現や単語を学習する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		Lesson16	関係代名詞(主格、目的格)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
	2月	Action 4	お土産の説明の仕方を学習する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		Lesson17	関係代名詞(what)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
		Lesson18	関係代名詞(where, when)の用法を学習し、場所や時など詳しく表現する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
	3月	Step Up 3	ブレーンストーミングの方法を学習し、ミニディベートをする。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
		Lesson19	仮定法過去の用法を学習し、願望や助言、行ってみたい時代などにについて表現する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
		Lesson20	接続詞について学習し、理由や春休み行きたい場所などについて表現する。	2 学 期 期 末 考 査		○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等	<p>(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。</p> <p>(2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・単語帳・PC/タブレット)を準備して授業に臨む。</p> <p>(3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。</p> <p>(4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。</p> <p>(5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。</p>								
評価方法	<p>(1) 知識・技能(授業:小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等)</p> <p>(2) 思考・判断・表現(授業:ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(授業:ノート・ワークブック・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。</p> <p>A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>								
備考欄									

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄である。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを書き、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを書き、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを書いていない、英語を用いて表現できていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を書き、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を書いている。	空欄が多く、授業内容を書いていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを書き、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを書き、表現豊かに記せている。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・学んだ内容を活用して、積極的に発表しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート・ワークブック	板書事項をきちんと書き、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を書いている。	板書事項を書いていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見だしている。	単元の学習内容の振り返りができている。	単元の学習内容の振り返りができていない。
	課題	課題	すべての課題に関して、内容をきちんと書いている。	内容を概ね書いている。	内容が書かれていない。
	授業	発表プレゼンテーション	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	外国語(英語) エッセイライティング I		履修学年 単位数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		・日常的な話題について使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。 ・統合的な言語活動を通して「話すこと〔やり取り〕」や「話すこと〔発表〕」についても、一定の支援を活用すればできるようになる。						知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書〈いっすな書店〉Harmony English Logic and Expression I 副教材〈いっすな書店〉Harmony English Logic and Expression I〔ワークブック〕 副教材〈旺文社〉英単語ターゲット1200【改訂版】								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	Lesson0	やりとり・書く・発表のためのウォームアップ Introduction		(1 学期期末考査)		○	○	
		5月	Lesson1	自分のことを話す・相手のことをたずねる(現在形) Meeting New People			○	○	○	
		6月	Lesson2	休日にしたことを説明する(過去形) Last Weekend			○	○	○	
		7月	Lesson3	自分の予定を話す・相手の予定をたずねる(未来の表現) Weekend Plans			○	○	○	
	2 学 期	9月	Lesson4	したことがあること・ないことについて話す(現在完了形) A Short Trip		(2 学期期末考査)		○	○	
		10月	Lesson5	Keep Talking1	移動する表現 してもよいこと・してはいけないことを伝える(助動詞①) School Rules			○	○	
		11月	Lesson6	Lesson6	ある出来事について推測する(助動詞②) Are You All Right? 道をたずねる表現		○	○	○	
		12月	Lesson7	Keep Talking2 Lesson7	さまざまなものを紹介する(受動態) Things Japanese		○	○	○	
	3 学 期	1月	Lesson8	これからしたいことについて話す(不定詞①) Talking about Dreams		(学年末考査)		○	○	
		2月	Lesson9	足りない情報を補う・説明を付け加える(不定詞②) To Keep Fit			○	○	○	
3月		Lesson10	あるもの・人によって可能になることを話す(不定詞③) Our Future Devices		○		○	○		
学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等	(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・単語帳・PC/タブレット)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。									
評 価 方 法	(1) 知識・技能(授業:小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業:ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業:ノート・ワークブック・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄										

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。 			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄である。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを書き、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを書き、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを書いていない、英語を用いて表現できていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を書き、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を書いている。	空欄が多く、授業内容を書いていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを書き、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを書き、表現豊かに記せている。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うおうとしている。 ・学んだ内容を活用して、積極的に発表しようとしている。 			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート・ワークブック	板書事項をきちんと書き、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を書いている。	板書事項を書いていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容の振り返りができている。	単元の学習内容の振り返りができていない。
	課題	課題	すべての課題に関して、内容をきちんと書いている。	内容を概ね書いている。	内容が書かれていない。
	授業	発表プレゼンテーション	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。	

鹿児島県立福山高等学校普通科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年 単位数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書： 大修館書店 [家総050-901] 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう 改訂版」							
学習の内容	1 学 期	4月	はじめに 第1章 生活の マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭総合」をなぜ学ぶのか理解する。 ・様々な生き方があることを理解する。 ・生涯を見通した生活課題と意思決定の重要性を理解する。 ・生活資源を活用し、生活設計を工夫する。 	一 学 期	○	○	○	
		5月	第2章 青年期 の課題と自立	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の発達課題を達成するための生きかたを考える。 		○	○	○	
		6月	第3章 家族・家 庭生活のマネジ メント	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 		○	○	○	
		7月	第9章 食生活 のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く課題、食と人との関わりについて理解する。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・栄養の特徴、食品の栄養的特質について理解する。 	二 学 期	○	○	○	
	9月		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の特徴、食品の栄養的特質について理解する。 						
	10月		<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全と衛生について理解する。 						
	11月		<ul style="list-style-type: none"> ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解する。 ・日本と世界の食文化などについて理解する。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ・日本の食文化の継承・創造について考える。 						
	12月	第8章 経済生 活のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解し、生活情報の収集・整理が適切にできる。 	学 年 末	○	○	○		
	1月		<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。 						
	2月	第10章 衣生活 のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深める。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解する。 					○	○
3月									
学習の方法 予習・復習 ノート等	(1)説明事項や板書は、必ずワークシートに丁寧に記入しまとめましょう。適宜、提出を求めます。 (2)発表や実習等などの活動には、積極的に参加しましょう。 (3)発問に対し意欲的に考え、聞き手に分かりやすく伝わるように努めましょう。 (4)小単元毎に授業の振り返りを行い、次の授業へ生かします。 (5)提出物は、必ず期限内に提出しましょう。								
評価方法	(1) 知識・技能(定期考査、小テスト、実習・実験等) (2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシート、レポート作成、発表、実習・実験、作品製作等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業や課題に取り組む態度、振り返りシートの記述、教師による行動観察、授業中の発言、自己評価や相対評価等の状況等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する) ・調理実習は、エプロン・三角巾を忘れずに持参してください。								
備考欄									

教 科	家庭	科 目 名	家庭総合
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している。	授業の内容をおおむね理解している。	あまり理解していない。
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している。	学んだ知識や技能を用い記述している。	学んだ知識や技能を用い記述できない。
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する。	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定している。	生活の中から問題を見だして課題を設定している。	生活の中から問題を見だして課題を設定できていない。
	解決方法を検討し、計画、立案する。		生活課題について多角的に捉え、実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫できていない。
	実践した結果を評価・改善する。		問題点や改善策を具体的に記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善していない。
論理的に表現する。	考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。		考察し表現している。	考察し表現できていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする。	・ワークシートの記述 ・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組んでいる。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組もうとしている。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組むことができている。
	自らの学習を調整しようとする。		学習内容について具体的に記述があり、次の学びにつながる振り返りができている。	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている。	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった。
実践しようとする態度。	・授業中の発言 ・教師による行動観察	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている。	発問に対して意欲的に考え、発言をしている。	発問に対して考え、自分の意見を持つていない。	
		学習に主体的に参加し、理解につなげている。	学習に参加し、理解につなげようとしている。	学習への取り組みが物足りず、理解しようという姿勢が乏しい。	

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	理数科 理数探究基礎	履修学年 単位数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		探究の意義や取り組み方、研究倫理、実験観察の基本的な技能を身につけさせる。また、資料の読み取り方や効果的な結果の表示方法などを学び、数学的な視点や理科的な視点など多角的な視点から発想し、探究する力を養う。							
教材		使用教科書： 啓林館 理数探究基礎 未来に向かって 副教材： 啓林館 理数探究基礎 未来に向かって 学習ノート							
学習の内容	1 学期	4月	探究へのいざない 探究とは 探究の流れ	・科学的に探究するとはどのようなことを学んでいきます。 ・簡単な実験をもとに、探究の流れを理解します。		○	○	○	
		5月	課題の設定	・ブレンスティングやKJ法などの思考ツールを活かして、課題を設定します。 (教科書の探究の事例を参考にする)	(期末 考 査)	○	○	○	
		6月	課題の探究 仮説の設定 文献を調べる 探究の計画 探究を記録する	・自分たちが立てた課題の仮説をたてます。 ・先行研究を調べる方法や記録方法を学びます。 ・探究の計画を立てます。 ・探究を行い、記録の仕方を学びます。		○	○	○	
	2 学期	～	探究の振り返り 結果の処理 再度、探究を行う	・探究結果から仮説の修正を行います。 ・データを扱う際の注意事項について学びます。 ・表やグラフの書き方について学びます。 ・実験や調査結果の分析方法を学びます。 ・修正した仮説に基づいて再度、探究を行います。	(期末 考 査)	○	○	○	
		12月	発表と報告書の作成 発表することの意義	・発表の種類について学びます。		○	○	○	
	3 学期	～	研究発表	・ポスター発表について学びます。 ・口頭発表の仕方について学びます。 ・口頭発表で用いるスライドの作り方について学びます。	発 表	○	○	○	
		2月 3月	報告書の作成 探究に取り組む姿勢	・報告書の作成方法について学びます。 ・探究に求められる倫理観について学び意見を交換します。		○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		① 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味・関心・疑問をもつこと。 ② 疑問に思ったことをメモをとる習慣をつけ、それを解決してみようという態度をもつこと。 ③ 学んだことを正確に記録する方法を身につけること。 ④ 学んだことを他者へ伝える方法を身につけること。						
	評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、探究ノート、グループワークへの参加、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、探究ノート、ポスター発表、口頭発表、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、探究ノート、ポスター発表、口頭発表等) 單元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)						
備考欄									

教 科	理数科	科 目 名	理数探究基礎
-----	-----	-------	--------

知識・技能	到達目標	・探究の意義や科学的に探究するために必要なことを具体的に示すことができる。 ・研究倫理について注意すべき点を具体的に示すことができる。研究倫理について注意すべき点を具体的に示すことができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題設定	レポート	探究に適した課題を設定し仮説を立てることができる。	探究に適した課題とはどのようなものか理解している。	探究の意義を理解していない。
	探究の流れ	ノート レポート	条件制御や対照実験、精度を上げる工夫など、探究計画に必要な知識・技能を身につけている。	探究計画の立て方や実験・調査の方法を理解している。	探究計画の立て方に対する理解が不十分である。
	考察	レポート	データを評価し、その関係を分析するための方法を身につけている。	データを適切な方法で、表やグラフとして表す方法を身につけている。	データを記録している。
	参考を調べる	ノート レポート	文献ごとの利点と注意点を理解している。	文献ごとの利点と注意点を理解しようとしている。	全く理解しようとしなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・科学的に探究することの重要性を具体的に説明でき、事例について正しく判断できる。科学的に探究することの重要性を具体的に説明でき、事例について正しく判断できる。 ・研究倫理の重要性を具体的に説明することができ、事例について正しく判断できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題設定	レポート	テーマの焦点をしばり、検証できるテーマを設定できている。	テーマを設定できている。	テーマを設定できていない。
	探究の流れ	ノート レポート	条件制御や対照実験、精度などを考慮して、探究計画を立てることができる。	現象の要因を考え、実験の条件などを考慮して探究計画を立てることができる。	計画書を埋めただけの探究計画になってしまっている。
	考察	レポート	データを適切に評価し、その関係を分析するなどして、論理的に結論を導くことができる。	データの分析から妥当な結論を導くことができる。	導いた結論の妥当性が不十分である。
	発表	ポスター 発表	整理された内容のポスター・スライドを効果的な構成・表現を考慮して作成し、十分練習したうえで発表を行っている。	適切な構成・内容のポスター・スライドを作成し、発表を行っている。	ただ、ポスター・スライドを作成し、発表を行っただけである。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・授業やグループでの話しあいの中で意見を出しあい、他者の意見についても調べて理解を深めている。 ・学校外の先生や研究者等のアドバイスを受けながら、探究の方法や内容について議論をし、主体的に探究を進めている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	探究に対する心構え	ノート レポート	授業やグループでの話しあいの中で意見を出しあい、他者の意見についても調べて理解を深めている。	授業やグループでの話しあいの中で、自分の考えを説明している。	与えられた課題にただ取り組んでいるだけである。
	探究活動	ノート レポート 発表	学校外の先生や研究者等のアドバイスを受けながら、探究の方法や内容について議論をし、主体的に探究を進めている。	仲間や先生と探究について議論をし、探究に取り組んでいる。	漠然と探究に取り組んでいる。

